

# 第4回新型インフルエンザ等対策推進会議

## 旅行業界 説明資料

一般社団法人 日本旅行業協会      副会長      小谷野 悦 光

一般社団法人 全国旅行業協会      専務理事      菅 井 雅 昭

単位：億円

# 主要旅行会社の月別取扱額と行動制限の相関

6000

5000

4000

3000

2000

1000

0

1 2 3 4 5 6 7 8 9 1 1 1 1 1 2 3 4 5 6 7 8 9 1 1 1 1 2 3 4 5 6 7 8 9 1 1 1 1 2 3 4 5 6 7 8 9 1 1 1 1 2

2019年

月 月 月

2020年

月 月 月

2021年

月 月 月

2022年

月 月 月

緊急事態宣言  
まん延防止等重点措置

行動制限の発出と旅行会社の取扱額減少には明らかに相関がみられる  
**緊急事態宣言発出期間** ⇒ 取扱額 平均 89% 減少 (対2019年同月)  
まん延防止等重点措置発出期間 ⇒ 取扱額 平均 76% 減少 (同上)

GOTO  
トラベル

県民割、エリア割

全国旅行  
支援

観光庁発表資料を基にJATA作成

## (一社)日本旅行業協会:新型コロナ対応における課題等について

### **GOTOトラベル事業をはじめとした国内需要喚起策への感謝**

準備期間確保等、運営上いくつかの課題はあったものの、観光インフラの崩壊から守っていただいた政策の功績は大きく、これが無ければ全国の宿泊運輸事業者等の廃業が相次ぎ、現在急激に復活しているインバウンド需要を取り込むことは困難であったと分析します。

### **飲食業同様の協力金支給が必要**

行動制限発出期間、旅行業者の取扱額はコロナ前の8~9割減という未曾有の事態が続きました。営業停止等の要請こそ無かったものの、行動制限発出が旅行取扱額を大幅に押し下げていることは明らかです。これは事実上の営業停止要請であり、飲食業と同様の協力金支給が必要であったと考えます。

また、事業者支援のあり方については海外事例の研究も必要と存じます。

### **行動制限の改良**

2020年11月に開催された第16回新型コロナウイルス感染症対策分科会において「(開始から4か月弱経過した)GoToトラベル事業が感染拡大の主要な要因であるとのエビデンスは現在のところ存在しない」と分科会提言に記載されています。また、旅行業界が独自に行った感染対策モニターツアーや、政府の「ワクチン・検査パッケージ技術実証」でも、新規感染者ゼロにて終わっています。

官民一体で「新しい旅のエチケット」の周知を行うなど、コロナ禍にあっても感染リスクを避けながら安全に旅行していただく手法を確立してきた中、一律に外出や県境を跨ぐ移動を抑止するという行動制限の発出には疑問を感じます。感染リスクの高いシーンは既に科学的に解明できていると思われます。一律の行動制限ではなく、具体的なNGシーンを特定する行動制限にバージョンアップすべきと考えます。

### 長期化した厳格な水際措置の見直し

日本は長期間、出入国を厳しく制限する水際措置を実行しましたが、感染拡大抑止の効果は限定的であったと国内外から指摘があります。海外においても厳格な出入国規制で長期的に感染を抑え込んだ国や地域は皆無であったと理解しています。また我々日本旅行業協会には各国の観光関係者より、日本の水際措置は過剰なものであり、早急に改善するよう政府に働きかけてほしいとの苦言が当時多数寄せられました。

今後に向けては国内外の事例分析を行い、厳格な水際措置は感染初期に限定して適用し、一定程度の感染拡大後は、出入国制限を順次解除し、経済や生活への悪影響を最小限に留めることに力点を置くべきと考えます。

## (一社)全国旅行業協会:新型コロナ対応における課題等について

### 国民への情報発信について

日本人には「右へならえ、皆と同じが良し」とする国民性があり、実際、コロナパニックのなかで他の都道府県からの来訪者や故郷に帰省した者を敵対視する等根拠のない誤った土壌ができてしまったことも旅行需要が減少した一つの要因であると考えます。

このため、新しい政府行動計画では、状況に応じて国民意識が間違っただけのベクトルに向かわないように迅速、正確、かつ強力に情報発信を行っていただきたくお願いします。

### 不要不急とされた旅行の効用について

不要不急の代名詞とされた旅行の自粛は、幅広い経済活動に大きなダメージを与えたとともに、インバウンド・アウトバウンドの途絶により国際相互理解する機会を失ってしまいました。

また、旅行がもつ効用である生きがいや安らぎ・ストレスの緩和・身体機能の活性化など国民の健康増進を阻害したのと考えます。また、密を避けた旅行として、自家用車にて観光地を回遊し個人で予約した旅館で食事・宿泊をするという個人・少人数旅行が定着した一方で、町内会、老人会や子供会、スポーツクラブ、企業などは、これら地域コミュニティの維持・強化や円滑油の役割を果たしてきた団体旅行を敬遠したため、地域コミュニティが弱体化・希薄化するという影響を与えたのと考えます。

上記のとおり、旅行は経済波及効果が高いのみならず、国際相互理解の増進、国民の健康増進や地域コミュニティの維持・強化といった幅広い意義・効果を考慮いただき、新しい政府行動計画では、旅行が不要不急という扱いにならないように情報発信をはじめとする対策を講じていただきたくお願いします。

【参考資料】 主要国・地域の出入国に関する規制一覧（2022年5月10日時点）

主要国・地域『往来再開目標対象国』 出入国に関する規制一覧  
 (2022年5月10日現在 JATA海外旅行推進部作成)

国名	指定国/ 非指定国	外務省 感染危険 レベル	入国要件			隔離・待機
			空港到着時の検査（検査）	ワクチン接種条件	事前検査義務有無	
中国	非指定国	2	—	—	—	—
香港	非指定国	2	空港到着時PCR検査あり	2回	要：48時間前	指定ホテルにて7日間隔離 5日目・7日目に抗原検査、その後7日間自主隔離
韓国	指定国	2	※検査なし	2回	要：48時間前	隔離・待機なし ※6～7日目に迅速抗原検査あり
台湾	非指定国	2	—	—	—	—
ベトナム	非指定国	2	検査なし	2回	要：72時間前	隔離・待機なし
マレーシア	非指定国	2	検査なし	2回	不要	隔離・待機なし
タイ	非指定国	2	検査なし	2回	不要	隔離・待機なし
シンガポール	非指定国	2	検査なし	2回	不要	隔離・待機なし
フィリピン	非指定国	2	検査なし	2回	要：48時間前	隔離・待機なし
インドネシア	非指定国	2	検査なし	2回	要：48時間前	隔離・待機なし
インド	非指定国	2	ランダムに検査	2回	要：72時間前	隔離・待機なし
オーストラリア	非指定国	2	※検査なし	2回	不要	隔離・待機なし
ニュージーランド	非指定国	2	※検査なし	2回	要：48時間前	隔離・待機なし
英国	非指定国	2	検査なし	接種問わず	不要	隔離・待機なし
フランス	非指定国	2	検査なし	2回	不要	隔離・待機なし
スペイン	非指定国	2	検査なし	2回	不要	隔離・待機なし
イタリア	非指定国	2	検査なし	2回	不要	隔離・待機なし
ドイツ	非指定国	2	検査なし	2回	不要	隔離・待機なし
フィンランド	非指定国	2	検査なし	2回	不要	隔離・待機なし
カナダ	非指定国	2	ランダムに検査	2回	不要	隔離・待機なし
米国	非指定国	2	検査なし	2回	要：24時間前	隔離・待機なし
ハワイ	非指定国	2	検査なし	2回	要：24時間前	隔離・待機なし
日本			空港到着時の検査あり (全数検査)	3回	要：72時間前	指定国・非指定国により隔離・自宅 待機等 条件異なる。

※入国後24時間以内に迅速抗原検査

[IV] 分科会から政府への提言：これまでより強い対策（続き）

(3) Go Toキャンペーン事業の運用見直しの検討

① Go To Travel事業

- Go Toキャンペーン事業を行う経済的意義・目的については多くの人々は理解をしていると考えられる。
- しかし、昨日の新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボードの評価にあるように、一般的には人々の移動が感染拡大に影響すると考えられる。
- そうした中、この時期に、人々に更なる行動変容を要請する一方で、Go To Travel事業の運用をこれまで通りに継続することに対し、人々からは期待と懸念との双方の声が示されている。
- Go To Travel事業が感染拡大の主要な要因であるとのエビデンスは現在のところ存在しないが、同時期に他の提言との整合性のとれた施策を行うことで、人々の納得と協力を得られ、感染の早期の沈静化につながり、結果的には経済的なダメージも少なくなると考えられる。
- そもそも、政府も分科会も、都道府県がステージⅢ相当と判断した場合には、当該都道府県をGo To Travel事業から除外することも検討するとしてきた。
- 現在の感染状況を考えれば、幾つかの都道府県でステージⅢ相当と判断せざるをえない状況に、早晚、至る可能性が高い。
- こうした感染拡大地域においては、都道府県知事の見解も踏まえ、一部区域の除外を含め、国としてGo To Travel事業の運用のあり方について、早急に検討して頂きたい。
- 感染拡大の早期の沈静化、そして人々の健康のための政府の英断を心からお願い申し上げます。
- なお、感染がステージⅡ相当に戻れば再び事業を再開して頂きたい。

② Go To Eat事業

- Go To Eat事業については、プレミアム付食事券の新規発行の一時停止及び既に発行された食事券やオンライン飲食予約サイトで付与されたポイントの利用を控える旨の利用者への呼びかけについて、都道府県知事に各地域の感染状況等を踏まえた検討を要請して頂きたい。

## 技術実証の結果概要(ツアー参加者・宿泊客)



- 9割以上の参加者がワクチン接種証明を利用。(ツアー：84.6%、宿泊施設：99.6%、全体：97.8%)
- ワクチン・検査パッケージには安心感があるという肯定的な意見が多数。
- ツアーは紙コピー・写真の割合が高く、宿泊施設では原本の割合が高い。
- 旅行後2週間以内の陽性と疑われる症状がある方は現時点で0名。

### 技術実証の実施状況(ツアー)

- 技術実証の参加人数及び利用した参加要件

	全体	ワクチン 2回接種済	PCRなどの検査 で陽性
人数(人)	972	822	150
割合(%)	100%	84.6%	15.4%

- ワクチン・検査を要件にしたツアーによる安心感

高まった	やや高まった	変わらない	回答無し
55.9%	35.6%	6.5%	2.0%

- ワクチン接種歴の持参書類の媒体

原本	紙コピー	写真(スマホ)	回答無し
21.1%	54.0%	25.3%	0.6%

■ ツアー集合時の確認の様様



### 技術実証の実施状況(宿泊施設)

- 技術実証の参加人数及び利用した参加要件

	全体	ワクチン 2回接種済	PCRなどの検査 で陽性
人数(人)	7,413	7,382	31
割合(%)	100%	99.6%	0.4%

- ワクチン・検査を要件にした宿泊による安心感

高まった	やや高まった	変わらない
38.6%	33.6%	27.8%

- ワクチン接種歴の持参書類の媒体

原本	紙コピー	写真(スマホ)	回答無し
65.2%	12.8%	21.5%	0.4%

■ チェックイン時の確認の様様





## 「新」感染対策モニターツアー実施報告と結果を踏まえたJATAの取組について

一般社団法人日本旅行業協会（本部：東京都千代田区 会長：坂巻伸昭 以下 JATA）では、会員会社の協力の下、4月に「『新』感染対策モニターツアー」を実施いたしました。その実施報告と結果を踏まえたJATAの取組についてお知らせいたします。

### < 「新」感染対策モニターツアー実施報告と結果を踏まえたJATAの取組について >

#### 1. 「新」感染対策モニターツアー実施の目的

with コロナの時代では、お客様の安全安心の確保はもとより、訪問地域も安心して旅行客を受入れることができ、その上で医療従事者の負担の軽減につながる対策も求められております。そのため、最新の知見を取り入れた「新しい旅のかたち」を旅行業界として検証するべく、モニターツアーを実施いたしました。

モニターツアーの結果を今後の安全安心な旅行実施にあたっての参考材料とするとともに、「旅行業のガイドライン」、「新しい旅のエチケット」など旅行会社とお客様の双方を対象とした一連の感染対策に、この結果を反映していくことを目的としました。

#### 2. 実施旅行会社（8社）

クラブツーリズム株式会社、株式会社JTBメディアリテリング、T-LIFEホールディングス株式会社、株式会社日本旅行、株式会社阪急交通社、名鉄観光サービス株式会社、株式会社読売旅行、株式会社ワールド航空サービス（2コース）

#### 3. 旅行日程（参考資料参照）

4/6~4/25の期間に8社9コース実施

#### 4. 旅行方面

（発地）東京発5本、山梨、奈良、新潟、名古屋発各1本

（方面）東北から関西まで9コース

#### 5. 参加人数（男女比、年齢分布）

8社9コース合計 154名（各社12名~23名参加）

男女比（約1：2）、10代~90代まで参加され、60代、70代が全体の約60%

## 6. 参加者の陽性報告

なし（最終ツアーから2週間経過後）

## 7. 4つの新たな感染対策

- ①陽性判明時のお客様による報告体制の確立
- ②C O C O A アプリの登録
- ③ツアー実施前のPCR 検査
- ④健康チェックシートを活用した体調管理（旅マエ1週間、旅ナカ、旅アト2週間）

## 8. 旅行会社が実施した安心安全配慮上の特記事項

<ツアー全般>

- ① 各業界対策ガイドラインを順守している観光・食事・宿泊施設を選定  
（クラブツーリズムはやまなしグリーンゾーン認定施設）
- ② 行程は自由散策など密を避ける観光と長めの滞在時間を用意
- ③ 受付時に検温の徹底と乗車のたびにお客様、添乗員、乗務員のアルコール消毒の徹底
- ④ 休憩場所での車内換気、車内共有部分のアルコール消毒清掃の徹底

<交通機関>

- ① バスはお1人様2席利用で相席なし
- ② バス座席には、飛沫防止用パテーションをお客様の希望に応じて設置
- ③ バス車内での飲食を禁止し、マスクを付けていても会話を極力避けていただく

<観光>

- ① 当ツアーお客様限定の貸切見学
- ② 観光中は必要に応じてガイドレシーバー/イヤホンガイドを利用
- ③ 参加人数に応じてグループを分けガイドを複数手配
- ④ 自由散策時の注意事項徹底。3密を感じたら立ち寄らない。立ち食いは極力避けるようご案内

<食事>

- ① 感染対策をとっているレストランを選定。パテーション、アクリル板、窓を開けて換気
- ② 宿泊先の食事会場では、夕食、朝食とツアーの専用個室を利用し、ソーシャルディスタンスをとり、グループ毎にお席を配置、アクリル板設置等。